

経口血糖降下剤

劇薬・処方箋医薬品

グリベンクラミド錠1.25mg「サワイ」

グリベンクラミド錠2.5mg「サワイ」

(グリベンクラミド錠)

2017年 3月

沢井製薬株式会社

大阪市淀川区宮原5丁目2-30
TEL: 06(6105)5816

使用上の注意改訂のお知らせ

この度、下記のとおり使用上の注意を自主改訂致しますので、お知らせ申し上げます。
今後のご使用に際しましては、下記の内容をご参照下さいますようお願い申し上げます。

記

・改訂内容 (下線部改訂又は追加箇所、取り消し線部削除箇所)

改訂後	改訂前												
<p>3. 相互作用 本剤は主に肝代謝酵素CYP2C9及びCYP3A4により代謝される。</p> <p>2) 併用注意(併用に注意すること) (1) 血糖降下作用を増強する薬剤</p> <p>① 臨床症状：血糖降下作用の増強による低血糖症状(脱力感、高度の空腹感、発汗、動悸、振戦、頭痛、知覚異常、不安、興奮、神経過敏、集中力低下、精神障害、意識障害、痙攣等)が起こることがある。</p> <p>② 措置方法：併用する場合には、血糖値その他患者の状態を十分観察し、必要に応じて本剤又は併用薬剤の投与量を調節するなど慎重に投与すること。特にβ遮断剤と併用する場合にはプロプラノロール等の非選択性薬剤は避けることが望ましい。低血糖症状が認められた場合には通常はショ糖を投与し、α-グルコシダーゼ阻害剤(アカルボース、ボグリボース等)との併用により低血糖症状が認められた場合にはブドウ糖を投与すること。</p> <p>③ 薬剤名等、作用機序：</p> <table border="1"><thead><tr><th>薬剤名等</th><th>作用機序</th></tr></thead><tbody><tr><td colspan="2" style="text-align: center;">(該当項目削除)</td></tr><tr><td>オキシカム系消炎剤 ロルノキシカム等</td><td>血中蛋白との結合抑制 〔これらの消炎剤は蛋白結合率が高いので、血中に本剤の遊離型が増加して血糖降下作用が増強するおそれがある。〕</td></tr></tbody></table>	薬剤名等	作用機序	(該当項目削除)		オキシカム系消炎剤 ロルノキシカム等	血中蛋白との結合抑制 〔これらの消炎剤は蛋白結合率が高いので、血中に本剤の遊離型が増加して血糖降下作用が増強するおそれがある。〕	<p>3. 相互作用 本剤は主に肝代謝酵素CYP2C9及びCYP3A4により代謝される。</p> <p>2) 併用注意(併用に注意すること) (1) 血糖降下作用を増強する薬剤</p> <p>① 臨床症状：血糖降下作用の増強による低血糖症状(脱力感、高度の空腹感、発汗、動悸、振戦、頭痛、知覚異常、不安、興奮、神経過敏、集中力低下、精神障害、意識障害、痙攣等)が起こることがある。</p> <p>② 措置方法：併用する場合には、血糖値その他患者の状態を十分観察し、必要に応じて本剤又は併用薬剤の投与量を調節するなど慎重に投与すること。特にβ遮断剤と併用する場合にはプロプラノロール等の非選択性薬剤は避けることが望ましい。低血糖症状が認められた場合には通常はショ糖を投与し、α-グルコシダーゼ阻害剤(アカルボース、ボグリボース等)との併用により低血糖症状が認められた場合にはブドウ糖を投与すること。</p> <p>③ 薬剤名等、作用機序：</p> <table border="1"><thead><tr><th>薬剤名等</th><th>作用機序</th></tr></thead><tbody><tr><td>ピラゾロン系消炎剤 ケトフェニルブタゾン</td><td>血中蛋白との結合抑制、 腎排泄抑制、肝代謝抑制</td></tr><tr><td>オキシカム系消炎剤 テノキシカム</td><td>血中蛋白との結合抑制 〔これらの消炎剤は蛋白結合率が高いので、血中に本剤の遊離型が増加して血糖降下作用が増強するおそれがある。〕</td></tr></tbody></table>	薬剤名等	作用機序	ピラゾロン系消炎剤 ケトフェニルブタゾン	血中蛋白との結合抑制、 腎排泄抑制、肝代謝抑制	オキシカム系消炎剤 テノキシカム	血中蛋白との結合抑制 〔これらの消炎剤は蛋白結合率が高いので、血中に本剤の遊離型が増加して血糖降下作用が増強するおそれがある。〕
薬剤名等	作用機序												
(該当項目削除)													
オキシカム系消炎剤 ロルノキシカム等	血中蛋白との結合抑制 〔これらの消炎剤は蛋白結合率が高いので、血中に本剤の遊離型が増加して血糖降下作用が増強するおそれがある。〕												
薬剤名等	作用機序												
ピラゾロン系消炎剤 ケトフェニルブタゾン	血中蛋白との結合抑制、 腎排泄抑制、肝代謝抑制												
オキシカム系消炎剤 テノキシカム	血中蛋白との結合抑制 〔これらの消炎剤は蛋白結合率が高いので、血中に本剤の遊離型が増加して血糖降下作用が増強するおそれがある。〕												



☆ 改訂後の添付文書につきましては、医薬品医療機器総合機構ホームページ(<http://www.pmda.go.jp>)および弊社の医療関係者向け情報サイト(<http://med.sawai.co.jp>)に掲載致しますので、併せてご参照下さい。